



ぶらり らいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 302

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

(問) 昭和30年頃、漫画は悪書とされ、PTAによって校庭で焼かれるなど焚書の対象になったらしいが、どの漫画が悪書とされたのか。また、対応した主な漫画家の名前という頃事態が収束したのか知りたい。

(答) 図書室の検索端末を使ってどのような資料があるか調べてみましょう。

詳細検索 ⇒ ☒図書 ☒雑誌 キーワード **悪書** ⇒ 59件ヒット

この結果にキーワードを追加して絞り込み検索をすることができます。

絞り込み検索 ⇒ **ことばで絞り込む** ⇒ **漫画 マンガ** ☒ いずれかのことばを含む ⇒ 43件ヒット



こちらも件数が多いので「資料の種類」で図書のみに入ると13件に絞り込まれました。

『発禁本』(023/H17/1 閉架一般 000042644)

昭和30年(1955)に全国PTAなどが中心となって「悪書追放運動」が激化したことがわかります。また、「有害」図書として非難された漫画のタイトルが挙げられています。

新しくわかったキーワードでも検索してみましょう。

詳細検索 ⇒ ☒図書 キーワード **悪書追放運動** ⇒ 7件ヒット

『児童図書館のあゆみ』(016/J48 閉架一般 000070537)

性を露骨に表現したり、暴力を助長するような出版物を排除しようとした運動であったと解説があります。また、表現の自由の観点から運動に対する評価は分かるとされています。

『手塚治虫』(726/Te95 地下書庫和図書 060006892)

漫画家の手塚治虫は雑誌のインタビューに応じ、運動の流行に対する自身の見解を述べました。

『手塚治虫とボク』(726/Te95 地下書庫和図書 000049460)

各地のPTAなどの団体により漫画への非難が高まり、回収された漫画が裁断機にかけられたり、火を付けられたと著者が回想しています。昭和30年(1955)1月から激化した悪書追放運動は同年の晩秋には下火になったと言われています。

著者名から検索することもできます。

詳細検索 ⇒ ☒図書 ☒著者名等 キーワード **手塚 治虫** ⇒ 44件ヒット

検索結果より ☒ 絞り込み検索 の「ことばで絞り込む」で「悪書追放」のキーワードで絞り込むと1件ヒットしました。

『漫画の奥義』(726/J48 地下書庫和図書 000050787)

手塚治虫が悪書追放運動に対応したエピソードを対談で振り返っています。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。

検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。

操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

花火と戦争



日本の夏の風物詩といえば花火。日本の花火大会は、江戸時代中期、享保18年(1718年)の両国の川開きが始まりとされています。この花火は娯楽のためではなく、前年に大飢饉や疫病の流行により、多くの人が犠牲となったことから人々の霊を弔うためのものでした。その後、川開きにあわせて花火が打ち上げられ「両国の川開き花火」として親しまれます。

昭和に入り戦争が始まると、火薬は軍用優先となり、昭和12年(1937)7月の実施を最後に中断しました。一部の花火工場は、軍需工場となり、「擬爆包」(5号玉の玉皮の中に発音体約50個を入れたもので、敵機に追尾された時、飛行機外に投げると花火の万雷のように爆音を発する)などを製造していたという話もあります。

戦後は、連合国軍最高司令官総司令部(GHQ)により火薬類の製造を禁止された時期を経て、両国の花火は昭和23年に11年ぶりに復活しました。交通量の増大や隅田川の水質汚染などの問題で中止された時期もありますが、昭和53年に「隅田川花火大会」と呼び名を改め今も続いています。

新潟県長岡市の花火大会は、昭和13年(1938)から中止に追い込まれていましたが、昭和22年に復活しました。長岡市は、昭和20年8月1日夜、米軍の大型爆撃機(B29)の大規模空襲で、市街地の約8割が焼け野原となり、学童約300名を含む1489名の命が奪われました。空襲から一年後の8月1日、犠牲者を慰霊し復興を誓う長岡復興祭が行われ、翌22年からは花火の打ち上げも行われました。現在では、1日夜、空襲が始まった時刻の22時30分に「白菊」という白一色の慰霊花火が3発打ち上げられ、市内の寺院では慰霊の鐘が鳴らされます。また、静岡県で毎年7月に開催される安倍川花火大会も慰霊花火です。静岡大空襲で犠牲になった人々への慰霊と復興、平和への祈りを込めて昭和28年から始まりました。

戦争を体験された方の中には、花火を見ると空襲や焼夷弾の記憶がよみがえると語る方がいらっしやいます。図書室で所蔵する体験談からお二人の手記を紹介します。

「空襲警報のサイレンと共にB29の編隊の爆音が夜空に響くやパッと明るくなった瞬間、シューッバラバラと落とされた焼夷弾であちこちの家に火が付き出しました。(中略)夏の夜空一面に花開くあの花火大会の音と硝煙の匂いをかぐ時、何故か花火は下からシュルシュル、ドーンと人を喜ばせるが、空襲の時のシュルシュルバーンと落下する焼夷弾の音が重なるのです。」

『語り継ごう平和の尊さ』(916/Ka83 閉架一般 000037757)

「天空に一点の光がともった。その光から無数の光が周りに散らばり、ゆっくりと目の前いっぱい広がって落ちてくる、これが焼夷弾だったのである。(中略)綺麗な逆さ花火の光を追って、私の目が途中まで下がってきたとき、ドーンという音と共に地上は真っ赤になった。目の前全面が、両手を広げてもその広がりを表現できないほど横に広がって炎に包まれている。」

『鴨 昭和ヒトケタから21世紀への伝言』(916/Ka41 閉架一般 000044447)

【参考文献】

『日本こどものあそび大図鑑』(384.5/Sa76 閉架一般 000046852)

『花火／下町／隅田川』(E386.13/H27 地下書庫江波戸図書 080004596)